



Newsletter

三井ボランティアネットワーク事業団 Mitsui Volunteer Network Center



新年度のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団 理事長 嶋津 智幸

平素より、三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net)の活動に、多大なるご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。今年度のニュースレターをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。



本事業団は、高齢化社会の到来を見据え、高齢者が積極的に社会活動に参加し、豊かで健康な生き甲斐を感じられる場を提供することを目的として、三井グループ各社のご尽力により、1996年に設立されたボランティア団体です。三井グループ企業のOB・OGを中心に、約1,500名が会員に登録され、活動に参加いただいております。

本事業団の活動分野は、国際交流、環境保全、医療・福祉、文化・教育、スポーツなど多岐にわたり、三井グループ全体の社会貢献活動を推進してまいりましたが、本年10月に30周年を迎えることになりました。

社会・地域の課題は時代とともに変化してきましたが、変わらなかったのは、会員の皆様の「誰かの役に立ちたい」という誠実な思いと、継続的に活動してこられた真摯な姿勢です。その積み重ねが、30年という歴史となり、多くの信頼と繋がりを育ててまいりました。

こうして30周年を迎えることができますのは、三井グループ各社ならびに会員の皆様、そしてボランティア活動を受入れていただいている関係先の皆様のご支援・ご協力の賜物であり、心より感謝し、御礼申し上げます。

会員の皆様は、地域文化や伝統を次世代に伝える貴重な担い手であり、長年の職業経験や人生経験を生かした助言、丁寧な対応と責任感により、本事業団の活動と品質を支えていただいています。

活動分野別に申し上げますと、国際交流では、各大学で、会員と留学生との一対一交流を活発に推進しています。また、留学生との交流イベントとして、東京大学(柏)での英語落語鑑賞会、横浜国立大学での着物正装体験会、

駒澤大学での世田谷ウォーキング、千葉大学での東京国立博物館見学、神戸大学での書道教室、同志社大学での茶道体験会、さらには日本の古典芸能である、能・狂言、歌舞伎、文楽の鑑賞会など、留学生に日本の社会・歴史・文化を理解していただく活動を幅広く展開しています。

医療福祉では、児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(神奈川県)での清掃活動や竹とんぼ教室などの園児との交流、さらに、第15回チャリティーコンサートを開催し、収益金を同ホームに寄付させていただきました。

また、日本チャリティ協会から支援要請を受けている各イベントでの支援活動や皆様からご寄付いただいた未使用切手・ハガキを民際センターの「ダルニー奨学金」を介して、経済的に教育を受け続けることが困難なメコン地域の中学生就学支援などに活用する取組みも実施しています。

文化・教育では、旧三井家下鴨別邸(京都府)や、司馬遼太郎記念館(大阪府)などの文化施設での受付やご案内などに、多くの会員の皆様が活躍されています。

環境保全では、広島平和記念公園(広島県)、須磨海岸(兵庫県)、二色の浜(大阪府)などの清掃活動も継続して実施しています。スポーツでは、各マラソン大会への支援や障がい者卓球などのパラスポーツにも支援活動を行っています。

一方で、定年・雇用延長などにとまない会員の皆様の高齢化が進んでおり、新規会員の拡大が大きな課題となっております。会員の拡大に向け、ニュースレター、ホームページの有効活用や三井グループ各社のOB・OG会への広報活動を強化してまいります。また、本事業団の運営委員会での拡大につきましても、関係各社への働きかけを継続してまいります。

さらに、新たな活動の検討・取組みについては、運営委員および会員の皆様との論議を一層深めてまいります。

本事業団といたしましては、今後とも会員の皆様にボランティア活動を通じて、お仲間を増やし、生き甲斐を感じていただけるように、また、三井グループによる社会貢献活動の一翼を担えるように、誠心誠意、活動してまいります。引き続き、三井グループ各社、運営委員会、会員の皆様のご支援・ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会員募集

三井ボランティアネットワーク事業団は、新規会員を募集しております。

- ▶ 三井ボランティアネットワーク事業団ホームページより、お申し込みください。
- ▶ 詳しくは最終ページをご覧ください。

会費は無料です



本部

三井V-Net本部企画 留学生のための民家園見学会に参加して

駒澤大学部会 鈴木 昌宏

2025年11月8日、三井V-Net主催の川崎市立日本民家園の見学会に駒澤大学部会からは交換留学生9名とボランティア会員5名の合計14名が参加しました。

園内建物のうち、葉屋の三澤家の屋根は石置き板屋根です。ガイドさんが留学生に屋根の石の数を尋ね、留学生の答えを聞いた後、屋根の写真を取り出して見せ、自分で全部の石を数えた結果を教えてくださいました。

合掌造りの家屋では、背景となる気候や産業が合掌造りに共通する急峻で大きな屋根や屋内の間取となった説明を受けました。野原家住宅に入ると木のつるで作った大きなカゴがあります。当時この地区(五箇山・富山県)は流刑地で橋をかけることが許されず、これは溪谷を渡るための手作りロープウェイで、そばに飾ってある歌川広重の「飛騨 籠渡し」の絵を見て深い谷を渡った様子を理解できました。また曲がった木材がそのまま家屋の梁(はり)に使われています。豪雪地帯の樹木は冬季の積雪により根元が曲がり、何十年も経て曲がった木をそのまま家屋の梁に使うことにより、家を丈夫に組み立てる知恵とのことでした。

留学生たちはガイドの皆さんの丁寧な説明で古民家の美しさだけでなく、その歴史的、地理的背景を知ることができ長く記憶に残る体験になったことと思います。



集合写真

英語落語はおもしろい～英語落語鑑賞会～

東大柏部会 垣沼 裕司(三井物産OB)

東大、東大図書館、そして当部会の三者で毎年秋に開催する英語落語の会は、寒波襲来の中、2025年11月13日(木)午後5時から7時まで、17カ国99名の参加者を得て開催されました。

<前半の部>

まず、"What's Rakugo"でスタート、その後、りりー



「井戸の茶碗」(ダイスケさん)

さんの"The Compliment(こほめ)"、アイルさんの"The Wallet(紙入れ)"と女性陣の噺があり、中トリのSanQさんの"Okiku's Plates(お菊の皿)"の噺は幽霊のお菊が色っぽく、そのお菊を見に来た連中の馬鹿さ加減と相まって笑いをとっていました。

<後半の部>

冒頭、部会世話人から一対一交流プログラムの紹介・宣伝を行った後、後半の部がスタート。幕開け早々、「落語体験」(ダイスケさん)で飛び入り参加の素人の方の堂に入ったしぐさに驚かされた後は、ワインさんの「犬の目玉」、昭和を思い出させる「南京玉すだれ」へと演目に工夫を凝らします。大トリの「井戸の茶碗」でダイスケさんが日本人の生真面目さを浪人と武士の掛け合いであり出し、会場に大うけでした。

本会は「英語落語かい枝会」のメンバーのボランティアに演技いただいておりますが、9年まえの2016年にスタートして以降公演を続けて下さる皆さんに改めてこの紙面をお借りして拍手!とても有意義な一日を過ごすことができました。



集合写真

着物正装体験会

横浜国大部会 佐々木 隆雄(日本製鋼所OB)

2025年11月23日、服飾文化研究会(横浜市)の教室で着物着付け師の方々のお手をお借りして留学生に着物を着付け正装してもらうという体験イベントを実施しました。今回で7回目です。

当日午前中は曇りがちでしたが、幸い午後は太陽も顔を出す穏やかな天候となりました。着物で正装後、良い写真撮影スポットである近くの厳島神社まで歩いて往復し人通りの多い風景の中に溶け込んだ経験は留学生にとって一つの良い思い出になったのではと思います。



厳島神社での集合写真

今回は男性留学生が14名と女性留学生より多い参加がありましたが、今回は極端で1名(2名の申し込みがあるも1名は体調不良で不参加)のみの参加でした。今回も家族での参加があり幼児二人(男女一名ずつ)が参加しています。厳島神社への歩いての往復で振袖姿の幼児、小さ

いながらも羽織袴の幼児の姿は歩いている人たちの目をひきつけました。



着物についての講義

千葉大会「留学生のための就職活動支援ワークショップ」の開催

千葉大会 正木 進(三井化学OB)

千葉大学国際教育センター主催、留学生の就活支援を主目的としたワークショップを2025年11月11日、18日の2日間にわたり国際教育センター1階大講義室で開催、三井V-Net会員延べ10名、留学生延べ10名が参加しました。

1. 第1回目の講義内容

- 「日本企業が求める留学生と就職活動のポイント」
(講師)正木進
- 「日本企業での就職体験」
(講師)千葉大OBド・テ・フォン氏
- グループディスカッション

留学生のための就活ガイドの概要につづき、ベトナム留学生OBのフォンさんから自身の就活体験と日本企業の職場の特徴について留学生目線での丁寧な説明がありました。出席した留学生は先輩の体験談、特に就活のポイントとなる日本語能力・自己分析・企業研究の手法について熱心に聞き入っていました。



前列左から2人目が筆者

2. 第2回目の講義内容

- 「私の会社勤めをふりかえって」
(講師)南 均氏(東洋エンジニアリングOB)
- 留学生からの質問に対する回答
- グループディスカッション

世界60カ国で活動した三井V-Netメンバーが、自身の歩んだ企業内活動を解説。それぞれの国の文化や習慣を深く理解することで、何より楽しく仕事が出来たとの説明がありました。

留学生からは、日本へ留学した経験を活かして日本企業へ就職したいという熱意を感じると同時に情報が少ないことへの不安も見受けられました。

三井V-Netとして、日本での就職を希望する留学生を少しでも支援できる場所を提供できたことは大変有意義だったと感じました。

鎌倉散策に参加して

陳 子玄(台湾淡江大学から駒澤大学へ留学中)



大仏の前で集合写真(前列右から2人目が筆者)

今回、三井V-Netのボランティアの皆さんと一緒に鎌倉の大仏、長谷寺、鶴岡八幡宮に行きました。

最初に行ったのは鎌倉大仏です。実際に近くで見ると、とても大きくて立派で、思わず「すごい!」と言ってしまいました。青銅でできた姿が美しく、長い年月を感じました。中にも入ることができて、昔の人の技術や工夫に感心しました。

そのあと、長谷寺に向かいました。長谷寺は花や木が多くて、きれいな庭が広がっていました。高い場所からは海も見えて、景色が本当に素晴らしかったです。静かで風も気持ちよく、とても落ち着く場所でした。おみくじを引いたり、みんなで写真を撮ったりして楽しい時間を過ごしました。

最後に行ったのは鶴岡八幡宮です。赤い鳥居がとても印象的で、神社の中は多くの人でにぎわっていました。歴史を感じる建物や雰囲気心が動かされました。

鎌倉の町全体が落ち着いていて、昔ながらの日本の雰囲気を味わうことができました。ボランティアの皆さんたちとたくさん話して笑って、めちゃ楽しかったです。とても思い出に残る一日になりました。

最後に、三井V-Netのボランティアの皆さんに感謝したいと思います。こんな素敵なイベントを企画していただき、ありがとうございました。もし一人だったら、きっとこんな場所には行かなかったと思います。



長谷寺の前で集合写真



第15回エリザベス・サンダース・ホーム チャリティーコンサート開催

本部事務局



海の見えるホールでの演奏

2025年11月15日(土)、三井 V-Net 主催の児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(以下 ESH)第15回チャリティーコンサートを聖ステパノ学園のご厚意により「海の見えるホール」(神奈川県大磯町)で開催しました。

主催者を代表して本事業団の嶋津理事長が挨拶し、ESHで25年の長きにわたりボランティア活動が継続していることを振り返り、関係するすべての方々からのご支援、ご協力の賜物と感謝の言葉がありました。また、2013年から9回にわたりコンサートの演奏を快くお引き受けくださった小林洋平様をはじめとした演奏者の皆様へも感謝の言葉がありました。

演奏は、主奏者でサクソの小林洋平様、ピアノの持山翔子様と7名のストリングスメンバーが奏で、観客は素晴らしい音色に酔いしれているようでした。今回でコンサートへの参加は一区切りつけたいと小林様から申し出があり、選曲については今まで演奏した曲の中から特に思い入れの深いものを選んだとコメントがありました。

演奏終了後、ESH 園児から演奏者へ感謝の花束贈呈があり、続いてコンサート収益金の目録が嶋津理事長より ESH 行武理事長へ贈られました。最後に行武理事長からお礼のご挨拶を賜り、コンサートは終演しました。



寄付金目録の贈呈

関西支部

神戸大学留学生交流会

関西支部事務局

2025年11月21日(金)、神戸大学にて留学生交流会を開催しました。本交流会は2005年に開始され、コロナ禍による中断を経て今年で19回目を迎えました。例年どおり本部から事務局長が出席し、今回は嶋津理事長も出席、本部から2名での参加となりました。



嶋津理事長も留学生と歓談

コロナ明けの一昨年、昨年は参加留学生が10名程度でしたが、今回は16名が参加しました。さらに、神戸大学側からはグローバル教育センター長の河合教授、朴教授にご出席賜り、また、ご協力いただいたボラン

ティア10名、事務局4名が加わり、総勢32名での開催となりました。会場では参加者同士の交流が活発に行われ、街歩きイベントに参加したことのある留学生が顔なじみのボランティアを見つけ、明るい笑顔で近況を語り合う姿が印象的でした。また、ボランティアの皆様からご提供いただいた多数の景品による抽選会も行われ、会場は終始和やかな雰囲気になりました。

懇談の時間には、Mitsui V-Net One-on-one Interactions (三井 V-Net 一対一交流)の紹介も行いました。交流会前にエントリーをしていた留学生も当日参加しており、その場でボランティアをご紹介し、1組のマッチングが成立しました。さらに交流会後には、新たに2名の留学生からエントリーがあり、一対一交流への関心が着実に高まっていることを実感しました。

今回の交流会は、留学生とボランティアが互いの文化や考え方に触れながら理解を深める貴重な機会となり、今後の活動への期待がさらに広がる一日となりました。



集合写真

神戸大学「神戸市役所から 旧居留地歩こう会」に参加して

山神 敦子 (三井化学 OG)

2025年10月18日(土)、曇り空から一転、強い日差しが降り注ぐ中、「神戸市役所から旧居留地歩こう会」が開催されました。

当日は、留学生7名、神戸大学の教員1名、タウンガイド KOBE24(ガイド役ボランティア)6名、三井 V-Net から6



前列右端が筆者

名の計20名が神戸市役所に集合しました。

まずは24階の展望台に上り、神戸の街を一望。タウンガイドKOBE24による英語ガイドでツアーが始まりました。

最初は緊張気味だった留学生たちも、東遊園地の「慰霊と復興のモニュメント」や、商船三井ビルの耐震補強の裏側見学を進めるうちに、ボランティアや留学生同士の会話も弾み、次第に笑顔あふれる和やかな雰囲気となりました。

三宮神社、元町商店街、南京町を巡った後、会議室で行われた交流会では、お菓子とお茶を楽しみながら、三井V-Netの活動について多くの質問が寄せられ、大いに盛り上がりました。

事務局から折り紙で作ったつまようじ入れや富士山の作品をお渡しすると、留学生たちはとても喜んでくれました。

私自身は、2025年8月に定年退職後、穂谷里山保全活動、須磨海岸クリーンアップに続く、3回目のボランティア活動でした。英語に不安はありましたが、留学生の皆さんが日本語に堪能で、安心して交流することができました。

歩き始める前には、留学生の一人が、かつて私の近所に住んでいたことが分かり、「え〜!」と声を上げてハイタッチ。距離が一気に縮まる瞬間もあり、まるで娘や息子と話しているかのような、楽しいひとときとなりました。

11月21日に行われる神戸大学留学生交流会で、今回の参加者と再会することを約束し、また一つ楽しみが増えました。

絆を築き上げること(加藤裕之さん <BIPROGY OB>との交流感想文)

羅婧煒(大阪大学留学生)

私が最初に三井V-Netに参加しようと思ったきっかけは、「空いている時間を有意義に過ごし、ついでに関西を観光できれば」という、ごく軽い気持ちからでした。

当時の私は岡山から大阪へ引っ越してきたばかりで、知り合いもおらず、どこへ行けばよいのかも分からない状況でした。期待を胸に関西での生活を始めたものの、ゼロからの新生活に、不安と孤独を感じていました。

そんな時に会ったのが、加藤さんでした。

加藤さんは優秀で博識、そして多くの人から信頼され、尊敬されている方です。初めてお会いした際、ご自身の経歴を拝見し、これまでに積み重ねてこられた多様な経験を知りました。その一方で、「こんなに優秀で、しかも年上の異国の方と、果たして対等に交流してよいのだろうか」と、不安を覚えたのも正直な気持ちでした。

しかし、その不安はすぐに消えました。

加藤さんの温かく、寛大なお人柄が、私の緊張を自然と

解きほぐしてくださったのです。

この一年余りの間、私たちは共に落語を観て笑い、三十三間堂では古代の職人技に感嘆し、比叡山から琵琶湖を眺め、瑠璃光院では初秋の紅葉を楽しみました。関西の息をのむような風景を共に味わう中で、日本と中国、両国の文化の違いについても多くの気づきを得ることができました。

加藤さんは、私にとってまるで「橋」のような存在です。

異なる背景を持つ人々を温かくつなぎ、新たなご縁へと導いてくださる方です。

また、加藤さんを通じて、プロジェクトメンバーである頼藤さんとも出会いました。

私たちは共に一人っ子で、母親との関係が深く、女性の社会進出や人権、ジェンダーの問題に強い関心を持っています。人権とジェンダーを研究する私にとって、彼女の示してくれる独自の視点は常に刺激的で、彼女は私の人生のロールモデルであり、理想の女性像です。

大阪での生活は、私にとってまさにゼロからのスタートでした。

しかし加藤さんのおかげで、かけがえのない思い出と大切なご縁を得ることができました。留学生である私にも、この土地に「根」があると胸を張って言えるようになったことは、何よりの収穫です。

昨年三月から始めた就職活動では、不採用通知が続き、自信を失う日々もありました。そんな時に私を支えてくれたのが、人生の先輩であるお二人の知見と、数え切れない励ましの言葉でした。そして最終的に、私は良い結果を得ることができました。

帰路の新幹線で、夕暮れに染まる富士山を眺めながら、加藤さんの言葉を思い出しました。

「人間到る処に青山あり」。

ゼロから大阪に来て、大切な絆を築き、かけがえのない思い出を得た——まさにその言葉を体現している自分の姿が、そこにありました。

人生の“青山”と、かけがえのないご縁を授けてくださったこと。

それこそが、私が国際交流を通じて得た、最大の宝物です。



奈良 今西家書院にて 左から加藤さん、筆者 羅さん、頼藤さん

ボランティアという居場所

川勝 房世 (登録会員)

兵庫県立美術館には、年に4回発行される『ミュゼV』というミュージアム・ボランティアだよりがあります。『ミュゼ』はフランス語で美術館を意味し、Vはもちろん Volunteer (ボランティア) ですが、Volonté(意志・意欲)、Voix



(声)、Vent(風)の意味も込められているそうです。現在、登録メンバーは188名で、活動内容は以下の通りです。

- *班活動(資料班・解説班・こども班)
- *学校(小中高)の団体鑑賞の補助
- *特別展のスライド解説
- *「兵庫県展」や「美術の中のかたち展」等の補助・会場見守り作業
- *美術情報センターの作業

私がいつも感じるのは、Volonté(意志・意欲)を文字通り実践している人が多いということです。例えば、特別展のスライド解説。これは、展覧会の概要を15分にまとめた原稿とスライド(担当学芸員の方が作成)を使って、毎週日曜日にスライドレクチャーを行うものです。レクチャー担当者以外のメンバーも、サポートとして多数参加しています。時には、レクチャールームに集まるお客様よりも多くのメンバーが参加することもあります。



「美術館の日」に読み聞かせを行う筆者

皆さん非常に研究熱心で、より良いレクチャーをしたいという思いでつながっています。年齢やこれまでの人生がさまざまであるものの、とても素晴らしいチームです。

この場所は、職場とも家庭とも異なる特別な場所であると改めて感じます。職場で悩みを抱えていた方が、ここでスライド解説仲間と集うことによって、それを乗り越えたという例もあります。私にとっても、いつの間にかかけがえのない居場所となっているように感じます。

このような場所を提供してくださった三井V-Netの皆様には、心から感謝申し上げます。これからも見守っていただけると嬉しいです。

関西万博・街ボランティア活動を振り返って

藤井 和正 (三井化学 OB)

2024年春、三井V-Netから万博ボランティア募集の紹介メールが届きました。その瞬間、「これだ!」と直感し、すぐに万博ボランティア事務局へ申し込みました。抽選の結果、残念ながら会場ボランティアには落選しましたが、「街ボランティア」として参加できることになりました。



筆者

街ボランティアは、主要駅で国内外の訪問客をサポートする役割です。e-learningを修了し、ユニフォームも届いて、あとは開幕を待つばかりとなりました。幸運にも、2025年4月5日の会場テストランに参加する機会を得て、まだオープンしていない万博会場内のパビリオンを見学することができました。

初めての活動は4月24日の新大阪駅。緊張しながらのスタートでしたが、海外からの訪問客の質問に対応する中で、会場へのアクセスなどを説明すると、単語を並べただけの英語でも意外と通じることに驚きました。「伝えたい」「知りたい」という気持ちがあれば、言葉は通じるものだと実感しました。

活動が進むにつれ、チケットやパビリオン予約に関する質問が増えていきました。正規に購入された方や海外からの来訪者に、予約の難しさを説明しなければならない場面もあり、心苦しく感じることもありました。

半年間で計12回のボランティア活動を行いました。スタッフや仲良くなったボランティア仲間とたくさん記念写真を撮り、名残惜しみながら再会を誓って解散しました。

振り返ってみると、あっという間の半年間でしたが、万博に関わることができた満足感と、世界中の人々となることができた充実感に満ちた、かけがえのない経験となりました。

中国支部

広島オペラアンサンブル 河野雅子事務局長からのお便り

三井V-Net中国支部の皆さま、お元気でお過ごしでしょうか。街にはクリスマスソングが流れ、寒さも一段と厳しくなっています。



広島オペラアンサンブル提供(カルメンから)

2025年11月のオペラ公演「カルメン」では、皆さまに多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。ご存じのように、注)広島オペラアンサンブルは1980年に設立された、広島で最も歴史あるオペラ団体です。その長い歩みの中でも、第48回公演「カルメン」は大成功を収め、多くの方々にご鑑賞いただくことができました。

クラシック音楽の公演運営は、資金面でも人手の面でも決して容易ではありません。しかし、皆さまにはチラシの挟み込み、受付、会場案内、陰アナウンス、さらには終演後の会場清掃までお力添えいただきました。本当にありがとうございました。改めて深く感謝申し上げます。長年にわたりお付き合いくださり、毎回のように参加して下さる方もいらっしゃることを、大変心強く感じております。

私たちも、オペラの普及を通じて芸術文化の振興と地域の活性化に貢献していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

注) 広島オペラアンサンブルについて

- 地域にオペラを広めるため、年2回の自主公演(本公演とミニオペラ)を開催しています。
- 海外の音楽家との交流を通じて、公演の質の向上を図っています。
- 若い音楽家に活動の場を提供しています。
- コロナ禍を経て、病院慰問公演を再開しました。
- 2025年8月26日には「MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島」にて国家斉唱を行い、オペラの発展に向けた活動を続けています。



筆者(左から2人目)

ボランティア情報センター利用者連絡会に参加しました

中国支部事務局

2025年9月24日、公益財団法人広島県男女共同参画財団エソール広島の研修室(おりづるタワー10階)にて開催された「社会福祉法人広島市社会福祉協議会ボランティア情報センター利用者連絡会・交流会」に参加しました。会場からは広島平和記念公園が一望でき、原爆ドームが真下に見えるという、広島歴史と平和への思いを感じる特別な空間での交流となりました。

参加者はそれぞれの団体とは異なるグループに分かれ、まずは各団体の活動紹介からスタート。地域で活躍する皆さんの取り組みを知ることで、互いの理解が深まり、今後の連携への期待が高まりました。

紹介の後は、グループ対抗のゲームタイム。初対面同士でも自然と笑顔がこぼれ、会場は大いに盛り上がりました。工夫されたゲーム内容が、参加者同士の距離をぐっと縮めてくれました。

ゲームの後は、食事をしながらの談笑タイム。グループの垣根を越えて、和気あいあいと語り合う姿が印象的でした。活動の悩みや喜びを共有し合うことで、互いの想いに触れる貴重な時間となりました。

交流会の最後は、広島県民文化センターへ移動し、三次



神楽鑑賞

市の伊賀和志神楽団による神楽を鑑賞しました。力強く、繊細な舞と音に、会場は静かな感動に包まれました。特に印象的だったのは、鑑賞していた外国人の方々が神楽の終了と同時に立ち上がり、拍手と歓声で喜びを表していた場面です。言葉を超えて心が通じ合う瞬間に、伝統芸能の力を改めて感じました。



エソール広島からの広島平和記念公園

今回の連絡会を通じて、団体同士のつながりの大切さを改めて実感しました。今後もこうした交流の場を大切にしながら、地域に根ざした活動を続けていきたいと思っています。

今回の連絡会を通じて、団体同士のつながりの大切さを改めて実感しました。今後もこうした交流の場を大切にしながら、地域に根ざした活動を続けていきたいと思っています。

広島平和記念公園清掃活動、ついに200回目!

中国支部事務局

2025年5月18日(日)、広島平和記念公園で実施している清掃活動が、ついに通算200回目を迎えました。

この活動は、2006年11月12日(日)にわずか7名の参加者でスタートしました。それから18年6か月にわたり継続され、今回の節目には45名の皆さまにご参加いただきました。

長年にわたって活動を継続できましたのは、ひとえにご参加くださった皆さまの温かいご支援とボランティア精神の賜物です。心より感謝申し上げます。

これまでの歩みを振り返ると、多くの方々が清掃に参加され、公園の美化と環境保全にご尽力くださいました。回を重ねるごとに参加者も増加し、この活動に対する関心の高まりを感じています。特に企業からの若い世代の参加が目立ってきており、次世代への意識の継承という点でも大変意義深いものとなっています。

今後もこの活動を継続し、より多くの方々にご参加いただけるよう取り組んでまいります。

広島平和記念公園がいつまでも清潔で美しい場所であり続けることは、平和への願いを形にすることにもつながります。

引き続き、皆さまのご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



2025年6月15日 第201回目 新たな一歩!



事務局 便り

2025年度「三井 V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

事務局

日本郵便製書き損じはがきおよび未使用切手のご提供につきましては、日頃より多くの皆さまからのご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

2024年中にお預かりした上記品々の換金額に前年度繰越金を合わせた総額は例年とほぼ変わらず115,021円となり、奨学金7口をタイの中学生1名(3学年分)と新たにラオスの中学生1名(4学年分)の入学から卒業までの奨学金として提供することができました。

2024年のメコン地域における台風被害の甚大さについては民際センターよりたびたび情報提供があり、現地の惨状を鑑みて2025年度は初めてラオスの中学生も支援することにいたしました。

現地の生徒に代わりまして皆さまからの温かいお気持ちに厚く御礼申し上げます。

三井 V-Net は設立当初より公益財団法人民際センターにて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金」を介して経済的に貧しく教育を受け続けることが困難なメコン地域の中学生の就学支援を続けております。今後も民際センターとの連携を通して、現地の状況に応じた支援を継続いたしたく、会員の皆さま、運営委員会部署単位やOB会の皆さまそしてそのほか多くの一般の皆さまにも引き続きなお一層のご協力を心よりお願い申し上げます。



皆さまからのご支援により2025年度に3年生(最終学年)に進級したタイの生徒

物品ご提供による支援のお願い

三井 V-Net では右記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し、東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか、インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として

役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもぜひお声がけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。

● ご提供いただきたい物品

- 日本郵便製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵便製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペイドカード(未使用のみ)

● **ご提供品送付先** 三井ボランティアネットワーク
事業団の本部もしくは各支部あて
(本ページ下の住所、電話番号をご覧ください)

編集責任者：鎌川 晃一

皆さまもボランティア活動に 参加しませんか



三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。

主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、三井グループ全体の社会貢献とすることを主な目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

参加いただけるボランティア活動

詳しくは三井 V-Net ホームページをご覧ください。
入会ご希望の方もホームページ
(<https://www.mv-net.com/>)より
ご登録をお願いいたします。



三井ボランティア

検索

三井ボランティア
ネットワーク
事業団

本部(東京)

〒107-0052
東京都港区赤坂3-11-3
赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181
FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪)

〒556-0011
大阪市浪速区難波中1-12-5
難波室町ビル3階
TEL:06-4396-8680
FAX:06-4396-8681

中国支部(広島)

〒730-0017
広島市中区鉄砲町6-7
中川ビル5階
TEL:082-222-5101
FAX:082-222-5101